



## 平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	・「話すこと・聞くこと」に関する問題の正答率は全国平均に近づいていた。 ・「書く力」や「読む力」を問う問題に課題があり、目的に応じて必要な情報を捉えたり、文を正しく書いたりすることを習慣化する必要がある。
国語B	・無回答率は低く、自分の考えを書く態度は育っている。 ・文章を読み、自分の考えや意見を記述する問題の正答率が低い傾向にある。
算数A	・とくに1に当たる数の大きさを求める問題場面で、「数直線上に表すこと」や「除数が小数の場合の除法の立式を理解する」問題の正答率が低かった。 ・無回答率は低く、問題を最後まで解こうとする態度は育っている。
算数B	・「量と測定」と「図形」の領域の正答率が低かった。 ・無回答率は低く、規則性を解釈して判断したり、情報を解釈して答えを求めたりする問題の正答率は全国平均と同程度であった。
理科	・「知識」に関する問題はおおむねできていたが、「活用」に関する問題は課題が見られる。 ・調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で記述したり、その内容を記述したりする問題に苦手意識が見られた。

### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<p>・全学級でめあてとまとめ、振り返りを意識した学習展開の工夫及び、話し合いの場の工夫(活動場面・視点等)により、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して発表していますか」や「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを広げたり深めたりしていますか」の問いに対して肯定的な回答をした児童が増えている。</p> <p>・「地域の行事に参加している」や「地域・社会の出来事に関心がある」児童の割合が増えている。今後、さらに継続して、PTAや地域と連携しながら、児童・保護者に啓発するとともに、地域とのつながりの大切さを価値付けていく。</p> <p>・「毎日同じくらいの時刻にねていますか」「起きていますか」の問いが全国平均に対して低い傾向がある。今後、PTAと連携しながら、PTA理事会・学校(学級)通信、懇談会等で、児童・保護者に啓発していく。</p>

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・全校では、学習の流れを明確にしながら、どの教科においても自分の考えや本時のまとめを書く時間を設定する。  
・学年では、既習学習の見直しや補充ができるように、朝自習・家庭学習を中心に基礎基本定着シートを活用する。  
・学級では、日々の学習や単元末テスト、基礎基本定着シートなどを活用して、学級の課題を明確にとらえて指導し定着を図る。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

・日々の学級指導だけでなく、学級活動や学校行事の中で、とくに「日常の生活や学習への適応」や「健康安全行事」と関連付けながら、継続的に児童へ指導していく。学校(学級)通信や保健だより・PTAだより等を通して、学習習慣・生活習慣の見直しと改善を保護者へ啓発していく。